

県立山口博物館周辺で確認した野鳥

杉江 喜寿¹⁾

1. はじめに

県庁所在地である山口市、その県庁のすぐ南側に山口県立山口博物館があります。博物館の周辺は古くから公園として整備されていて、今では大木が茂る雑木林として野鳥の憩いの場となっています。そのため少し周辺を散歩するだけでさまざまな野鳥に出会うことができます。そうした野鳥の中から2013年11月から2014年1月の間に見かけた野鳥を紹介します。(ただし、図12の昆虫を食べているヒヨドリのみ2013年9月撮影)

2. 博物館周辺の様子



図1
博物館前庭



図2
博物館裏山

3. 食餌姿の観察事例

図の3~12は、食餌中の野鳥の姿です。よく見ると、くちばしの先に食べ物をくわえています(図8は口から離しています)。野鳥は、大きく分けて果実食と、昆虫食に分けられます。ヒヨドリは雑食なのでどちらの姿も撮影することができました。



図3 アトリ (2013.12.15)
(アトリ科: 冬鳥、果実を食べています)



図4 アトリ (2013.12.25)
(アトリ科: 冬鳥、果実を食べています)

¹⁾ SUGIE, Yoshihisa 山口県立山口博物館 (H25年度長期体験研修教員) (〒753-0073 山口市春日町8-2)



図5 イカル (2013.12.4)
(アトリ科：留鳥、果実を食べています)



図6 イカル (2014.1.15)
(アトリ科：留鳥、果実を食べています)



図7 ジョウビタキ (ツグミ科：冬鳥)
・捕まえた昆虫を何回か地面にたたきつけて食べやすくしているようでした。



図8 ジョウビタキ (図7、8とも2013.12.5)



図9 ヤマガラ (シジュウカラ科：留鳥または漂鳥)
・木をつつく音がしたのでコゲラかと思いましたが、ヤマガラが木の実を割っていたようです。



図10 ヤマガラ (図9、10とも2013.12.7)



図11 ヒヨドリ (2013.12.5)
(ヒヨドリ科：留鳥または漂鳥)



図12 ヒヨドリ (※2013.9.15)

- ・図11は、まさに実をくわえた瞬間！ヒヨドリは雑食なので図12のように昆虫も食べます。
図12のくちばしの下に昆虫の羽根が見えます。

4. その他の観察事例

博物館周辺の野鳥の観察を始めた初秋頃は、目の前に野鳥がいても気づかずに、逃げられてしまうことがほとんどでしたが、次第に野鳥の気配を感じるようになりました。しかし、逆に2013年4月から博物館に研修にきていながら、それまでいかに周りを「見ているようで見えていなかった」のかを実感することになりました。まだまだ見逃した野鳥も多いと思いますが、少し意識しただけでもこれだけの種類の野鳥が「見えて」きました。



図13 エナガ (2013.11.24)
(エナガ科：留鳥または漂鳥)



図14 カワラヒワ (2013.12.7)
(アトリ科：留鳥(漂鳥)または冬鳥)

- ・エナガはシジュウカラの群に混じていました。体の大きさの割に尾が長いのが特徴です。



図15 シジュウカラ (2013.11.24)
(シジュウカラ科：留鳥または漂鳥)



図16 キセキレイ (2013.12.5)
(セキレイ科：漂鳥または留鳥)



図17 ビンズイ (2013.12.5)
(セキレイ科：留鳥または夏鳥)



図18 アオジ (2013.12.7)
(ホオジロ科：留鳥または漂鳥)



図19 ツグミ (2013.12.5)
(ツグミ科：冬鳥)



図20 ハシボソガラス (2013.12.18)
(カラス科：留鳥または旅鳥)



図21 カルガモ (2013.11.29)
(カモ科：留鳥または冬鳥)
・博物館南側の小さな池に飛来していました。



図22 スズメ (2014.1.7)
(ハタオリドリ科：留鳥または漂鳥)
・博物館前の小川の土手にて



図23 ルリビタキ (2014.1.9)
(ツグミ科：留鳥 (漂鳥))



図24 キジバト (2014.1.14)
(ハト科：留鳥または漂鳥)



図25 セグロセキレイ (2014.1.16)
(セキレイ科：留鳥)
・ハクセキレイはよく見かけますが…。



図26 コゲラ (2014.1.23)
(キツキ科：留鳥)
・カラ類に混じり小枝をつついていました。



図27 ミヤマホオジロ (2014.128)
(ホオジロ科：冬鳥)
・メスと一緒に仲良くエサをついばんでいました。
黄色と黒の頭で、冠羽があります。

5. 終わりに

今まであまり気にとめていなかった野鳥ですが、ちょっと足を止めて観察してみると博物館の周辺だけでも多くの種類がみつかりました。野鳥でも冬鳥や留鳥の違いがあったり、食べ物によってくちばしの形が違っていたりと、観察の視点を決めて見てみるとまた違った楽しみ方があります。

博物館の周辺は、公園として整備されていて自然が豊かに残り、見つけたドングリの種類だけでも6種類（マテバシイ、ツブラジイ、アラカシ、コナラ、ウバメガシ、シラカシ）あり、晩秋の紅葉も見事でした。このドングリや紅葉を過ぎても残るイロハモミジの果実、大木につく昆虫などを狙って野鳥が集まります。山口博物館の周辺は、野鳥にとって恵まれた環境であると同時に、いろいろな野鳥と気軽にふれあえるすばらしい環境なのです。

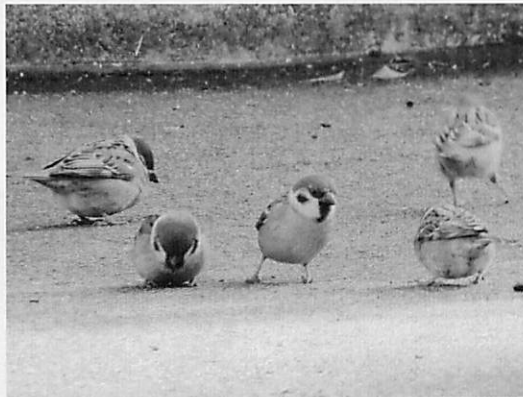


図28 スズメの群れ：(2014.1.7)
・博物館前の駐車場で……まるでダンスチームのようでした。

6. 参考文献

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄 (1998) ハンディ図鑑7 日本の野鳥 62p-598p 山と溪谷社